

問題解決能力の育成と言語活動の充実

【吉川市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 小学校・3～6学年・理科
- 2 ねらい

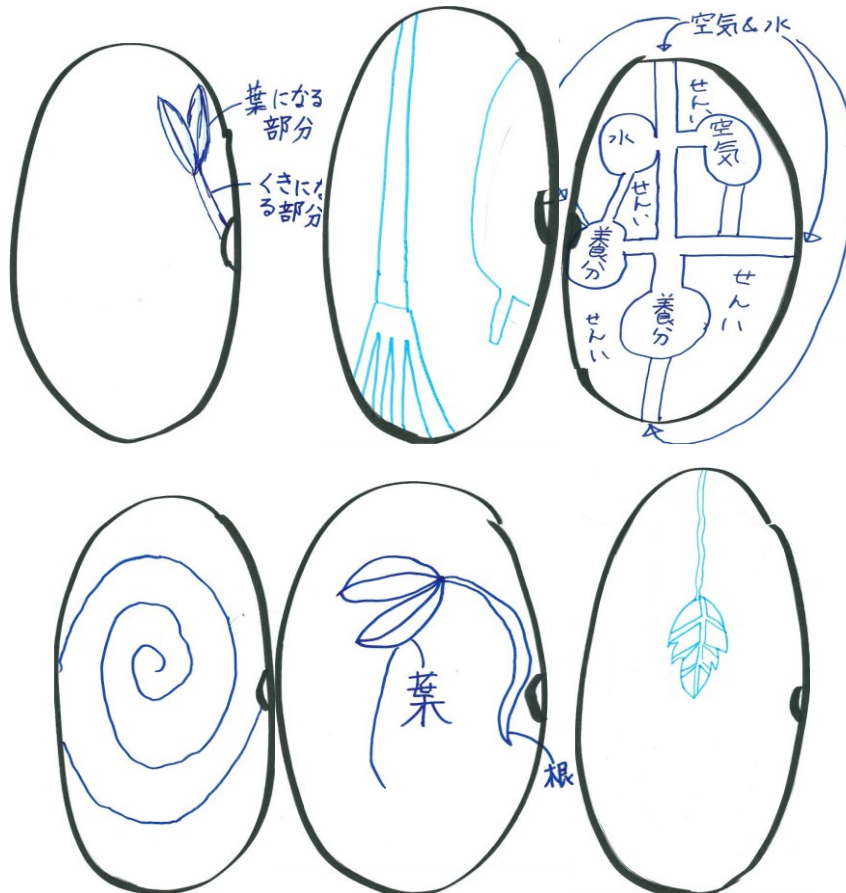
課題解決に向けて生活経験やこれまでに学習した内容を活用し、見通しをもって観察、実験に取り組むことで、問題解決の能力や観察、実験の結果を整理し考察する力を養う。

- 3 取組内容

- (1) 課題解決に向けて一人一人にしっかりと見通しをもたせる

知識を活用する能力の育成が課題となっている。そこで、課題解決に向け、子ども達が身につけている生活経験やこれまでに学習した内容を活用し、見通しをもって観察、実験に取り組ませる。そのことが、子どもの興味、関心を高め、主体的に問題を解決する能力の育成につながる。

実践例としては、いんげん豆の種子の中の様子を予想した後、観察を行う。課題解決に向けて、自分の予想を絵や言葉を使って表現し、グループ等で話し合った後、観察、実験を行うことで、課題がより明確になると共に、観察の視点も明確になる。(資料1)



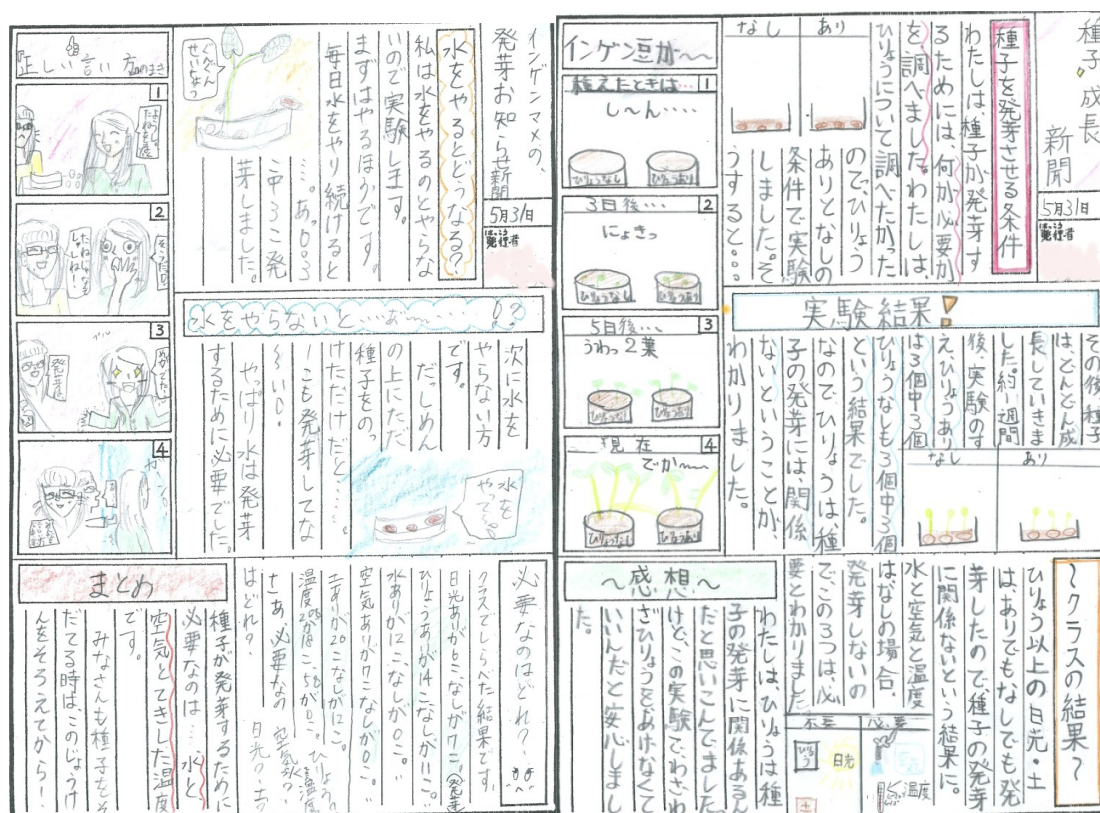
資料1 子ども達が予想したインゲン豆の種の中の様子

(2) 結果の考察の仕方をしっかりと身につけさせる

観察や実験の結果をしっかりと考察することで、科学的な見方、考え方を養うことができる。結果の考察では、課題に対する自分の予想と、観察や実験から得られた事実としての結果、そしてその結果を受けての自分の考えを記述する。自分の言葉で説明し、それを科学的な言葉や概念と結び付けることで、子ども達は学習内容をより深く理解する。

(3) 学習のまとめ新聞を作成させる

単元の最後に、学習した内容を新聞にまとめ発表させることで、知識を活用する能力を養うとともに表現力を豊かにし、学習内容についての理解を深めることができる。



資料2 学習した内容をまとめた新聞

4 成果と課題

一人一人が見通しをもって観察、実験に取り組むことによって、課題を解決したいという意欲が高まり、主体的に問題を解決しようとする児童を育成することができた。

また、結果の考察の仕方を身につけるとこで、科学的なものの見方や考え方も身につけてきた。

学習した内容を新聞にまとめることで、学習した内容についての理解が深まると共に、学習した内容を身近な現象と結び付けて考えたり、生活の中で身に付けた知識を活用したりすることができる児童を多く育むことができた。